

6年ぶり2回目の優勝を果たしたクワトロ
ガールズFCの選手たち＝静岡市清水区



クワトロGFC 6年ぶりの優勝

草サッカー女子

TNFCに3-0

第37回全国少年少女草サッカー大会（朝日新聞社など主催、第一三共ヘルスケア協賛）女子の部決勝が13日、静岡市の清水総合運動場であり、クワトロガールズFC（御殿場市）がTOKYO NADESHIKO FC（東京）を3-0で破り、6年ぶり2回目の栄冠に輝いた。男子の部は17日に開幕する。

クワトロは0-0で迎えた後半、新谷百亜那選手（6年）のゴールで先制。新谷選手はその後も立て続けにゴールを決め、1試合に3得点のハットトリックを達成

新谷選手 大舞台で3点



ハットトリックとなるゴールを決める新谷百亜那選手（右）

ピンクのシューズを履いたクワトロガールズFCの新谷百亜那選手（6年）が大舞台で大仕事をやってのけた。互いに譲らず、0-0で折り返した後半、相手

クワトロGFC

3連勝 最後まで奮闘



シュートする稲葉なな選手（中央）

手（6年）のパスを受け、冷静にネットを揺らした。これまでも、ハットトリックを決めたことがあるという点取り屋は集中していた。勝利が決まると、ピッチで誰よりも高く跳ね、喜びを表現。「大きな大会の決勝戦では初めて。鳥肌が立った」とはにかんだ。

チームの主将で、事前に「パスをつないで3-0で勝つ」と話していた望月選手。この日もの確かなアシストで得点劇を演出するなど、「有言実行」を果たしてみせた。バトンを渡す後輩たちへ「来年もパスサッカーで優勝してほしい」と期待を寄せた。（床並浩一）

J2清水・GK権田選手 「夢持って取り組んで」

閉会式にサプライズで登場

女子の部の閉会式では、クワトロガールズFCの選手に優勝旗やトロフィーが贈られた。

会場には、昨年のW杯カタール大会で活躍したJ2清水エスパルスのGK権田修一選手（34）がサプライズで登場。選手にメダルや記念品を渡した権田選手は「W杯に誰かしら出場してほしい。夢を持って一生懸命にサッカーに取り組み、楽しい時間を過ごしてほしい」と励ました。

た。GK稲葉なな選手（5年）が後半途中でフィールド選手に転じ、それから10分足らずで2点を挙げた。パスを受けて左足で同点ゴールを決めると、次はゴール前へはね返ったボールを右足で決めて逆転。「点をとれたらいいな、とは思っていた。2点もとれてすごうれい」と稲葉選手。チームは今大会、2連敗のあと3連勝。主将の西村莉々那選手（6年）は「初日の2連敗は悔しいけ

れど、最後まで走り切れませんでした。」（杉山圭子）

【個人表彰】（敬称略）

最優秀選手賞 新谷百亜那（クワトロ）
優秀選手賞 西田菜美花（パティ）、尾上陽向（AC等々力）、森由依理（松本）、辻本真歩（TOKYO NADESHIKO）、齋藤希子（同）、佐々木楓和（クワトロ）、望月真鈴（同）

FC Fujiメジエールジ 定戦に臨み、横浜ウインズユニア（富士市）は17位決（神奈川）を2-1で破つ

メジエール